

通し番号	分類群番号	分類内番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着状況	定着時期に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人体への被害	対策の優先度	対策方法・対策実施時の注意点など(分類により取扱いが異なるため、具体的な記載が可能な限り記載)
1	1	1	対策優先種	哺乳類	アラビグマ	<i>Procyon lotor</i>	○	定着	全県下		◎	◎	◎	○	全県下での定着が確認されている。誘引物除去、住居侵入防止、空き家対策を行うことが重要。人獣共通感染症等に注意が必要。
2	1	2	対策優先種	哺乳類	ハウレンソウ	<i>Pipoma larvata</i>		定着	全県下		◎	◎	◎	○	全県下での定着が確認されている。誘引物除去、住居侵入防止、空き家対策を行うことが重要。人獣共通感染症等に注意が必要。
3	1	3	対策優先種	哺乳類	ノブライノプタ(ノブライノプタの野生化したもの)	<i>Sus scrofa</i>		定着	全県下	とくに東毛地域で多い傾向	◎	◎	◎	○	DNA分析の結果、東毛部での検出が比較的多い傾向が報告されている。県内のインゲン等の栽培は生態系管理対策と併せて生態系管理を推進し、誘引物の除去、誘引物の除去、防護網の設置等、防除対策を行うことが重要。
4	1	4	対策優先種	哺乳類	シマリス(キョウセンシマリス)	<i>Tamias sibiricus</i>		定着	一部地域に限定		◎	◎	△	○	飼育動物の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。
5	1	5		哺乳類	ノネコ(イエネコの野生化したもの)	<i>Felis silvestris catus</i>		定着			△	△	△		
6	1	6		哺乳類	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
7	1	7		哺乳類	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
8	1	8		哺乳類	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
9	1	9	対策優先種	哺乳類	タイワンザル	<i>Macaca cyclops</i>	○	侵入	少数個体	西毛地域	◎	◎	◎	○	ニホンザルとの交雑が懸念される。飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合にはニホンザルとの交雑を防止するため早期の捕獲対策が必要。
10	1	10	対策優先種	哺乳類	アカザル	<i>Macaca mulatta</i>	○	侵入	少数個体	西毛地域	◎	◎	◎	○	ニホンザルとの交雑が懸念される。飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合にはニホンザルとの交雑を防止するため早期の捕獲対策が必要。
11	1	11	対策優先種	哺乳類	クニハリス(タイワンリス)	<i>Callosinus erythraeus</i>	○	侵入			◎	◎	◎	○	飼育動物の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。
12	1	12	対策優先種	哺乳類	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	○	侵入			◎	◎	△	○	飼育動物の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。
13	1	13	対策優先種	哺乳類	アマビコビク(ヒョウ)	<i>Neovison vison</i>	○	侵入			◎	◎	△	○	飼育動物の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。
14	1	14		哺乳類	エートリア	<i>Myocastor coypus</i>	○	侵入			◎	◎	○		
15	1	15		哺乳類	ノイス(イヌの野生化したもの)	<i>Canis lupus</i>		侵入			◎	◎	◎		
38	2	1		鳥類	ガビチョウ	<i>Gallus canorus</i>	○	定着	個体数も多分布も広い。県内でもさらに分布を広げ、個体数も増加傾向にある。		○	△	△		素を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
39	2	2		鳥類	カゴゴロガビチョウ	<i>Gallus sanio</i>	○	定着	ガビチョウに同じ。ただし本種の方が分布域は狭い。		○	△	△		素を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
40	2	3		鳥類	ソウリンチョウ	<i>Leidithrix lutea</i>	○	定着	繁殖期は美濃高地に生息するため、県内の分布の調査は困難である。繁殖期への影響を評価できない。		○	△	△		繁殖期には標高が高い地域に生息し、ササ藪を好むため、対策は困難。
41	2	4		鳥類	ワカホシセイコ	<i>Psaltriparus kamoharui</i>		定着	個体数も多くは広く、分布も限定的。		△	△	△		繁殖地が限地的なため、環境による個体数減少の可能性がある。ただし、移動能力が高いため、全県域を一斉捕獲しないと種地の分散をまねく可能性があり、対策は難しい。
42	2	5		鳥類	ゴジュウケイ	<i>Bambusaica thorensis</i>		定着	古くからの人為的移入種で、広域に分布する。		△	△	△		素を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
43	2	6		鳥類	カウラト(トビ)	<i>Columba livia</i>		定着	古くからの人為的移入種で、市街地を中心に広域に分布する。		△	△	△		すでに県内に広く分布し、個体数も非常に多いことから、対策は困難。
44	2	7		鳥類	カゴゴロガビチョウ	<i>Gallus persipillatus</i>	○	侵入	過去には繁殖記録があったが、その後は単発の観察記録があるのみ。		△	△	△		県内への侵入個体が少ないから種地を特定し、一斉捕獲できれば対応は可能かもしれない。
45	2	8		鳥類	コリンクヅ	<i>Colinus virginianus</i>		侵入	利根川の伊勢崎周辺で確認されていたが、現在は生息していないかもしれない。		△	△	△		
46	2	9		鳥類	コバクチョウ	<i>Oxyechus oler</i>		侵入	多々長形などで繁殖していたが、現在はツノも観察できず、繁殖は県内には生息していないと思われる。		△	△	△		
47	3	1		爬虫類	アカヒゲガ	<i>Trochomys scriptus</i>	桑付付	定着	東毛中野野では個体数が多い		○	△	△		県に蔓延に近い地域もある。繁殖にはかなりのコストがかかるため、広域で増殖することは困難である。生態系への影響(土壌中の昆虫等)が懸念される地域等での限定的な駆除が合理的である。個体群維持のための駆除で所々の個体群を維持しつつ、生態系への影響を抑制するよう駆除活動が望まれる。
48	3	2		爬虫類	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		定着	アカヒゲガほどではないが、しばしば発見される		△	△	△		インゲンなどの雑草が懸念される。個体群維持が小規模な地域ではトランプ等で駆除効果がある。但し、何年かに一度に侵入した種を駆除すべきは困難であるが、アカヒゲガと同様に人為的移入種であるため駆除活動が望まれる。
49	3	3		爬虫類	ワニガメ類	<i>Macrochelys spp.</i>		侵入			△	△	△		発見が機率的なため、その程度の駆除で対応している。但し、侵入から定着に至り、個体数が増大すれば、駆除が困難になるばかりか、生態系への影響(経済・産業被害、人体への被害等)が深刻になる可能性がある。駆除のための駆除が必要であり、それには注意喚起の啓発活動が必要である。特定動物の駆除に、環境的に人体への被害(咬傷)も考慮されるため、取り扱いは十分に注意が必要である。
50	3	4		爬虫類	オモトキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	○	侵入			△	△	△		発見が機率的なため、その程度の駆除で対応している。但し、侵入から定着に至り、個体数が増大すれば、駆除が困難になるばかりか、生態系への影響(経済・産業被害、人体への被害等)が深刻になる可能性がある。駆除のための駆除が必要であり、それには注意喚起の啓発活動が必要である。特定動物の駆除に、環境的に人体への被害(咬傷)も考慮されるため、取り扱いは十分に注意が必要である。
52	4	1		両生類	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i> (<i>Lithobates catesbeianus</i>)	○	定着			◎	◎	◎		県内各地に定着しているが繁殖が速く、水質汚濁、農薬等の理由で人為的に導入されたもので、外来魚と同様に駆除しなくてはならないとされている。
53	4	2		両生類	関東以北及び島に侵入したヌマガエル	<i>Feltrinaria kasamurai</i>		定着			△	△	△		物流品への侵入を防ぐ。
54	1	1	対策優先種	魚類	チャネルキョウフィッシュ(アメリカナマズ)	<i>Ameletus punctatus</i>	○	定着			○	○	△	○	

通し番号	分類群番号	分類群名称	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着段階	定着段階に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人体への被害	対策の優先度	対策方法・対策実施時の注意点など(分類により取扱いが異なるため、具体的な記載が可能な種のみ記載)
55	5	2	対象種先種	魚類	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	○	定着			○	○	△	○	
56	5	3	対象種先種	魚類	コケナハス	<i>Micropterus dolomieu</i>	○	定着			○	○	△	○	
57	5	4	対象種先種	魚類	オオクチナハス	<i>Micropterus salmoides</i>	○	定着			○	○	△	○	
58	5	5	対象種先種	魚類	タイリクバラタナゴ	<i>Rhinichthys cataractae</i>		定着			○	○	△	○	
59	5	6		魚類	コウライギギ	<i>Pseudorasbora parva</i>	○	定着			○	○	△		
60	5	7		魚類	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		定着			○	○	△		
61	5	8		魚類	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>		定着			○	○	△		
62	5	9		魚類	ハス	<i>Ospicichthys unicoloris</i>		定着			△	△	△		
63	5	10		魚類	スジモロコ	<i>Squalius biene</i>		定着			△	△	△		
64	5	11		魚類	カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>		定着			△	△	△		
65	5	12		魚類	ムゲンソウ	<i>Puntungia herzi</i>		定着			△	△	△		
66	5	13		魚類	ソナヅキ	<i>Abbotina rivularis</i>		定着			△	△	△		
67	5	14		魚類	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>		定着			△	△	△		
68	5	15		魚類	アカザ	<i>Lutagnus rostr</i>		定着			△	△	△		
69	5	16		魚類	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
70	5	17		魚類	コケレン	<i>Aristichthys nobilis</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
71	5	18		魚類	ソウゴ	<i>Chiropharyngodon idella</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
72	5	19		魚類	アオウオ	<i>Mykopharyngodon piceus</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
73	5	20		魚類	ヨコシマドク	<i>Microperca swinhonis</i>		侵入			△	△	△		
74	6	1	対象種先種	昆虫類	クビアカツヤカミキリ(クワジヤコウカミキリ)	<i>Anomia bungii</i>	○	定着	県南部で確認され、東毛地域を中心に定着・増加している。		◎	◎	△	○	
75	6	2		昆虫類	ホソオチョウ(ホソアゲハ)	<i>Scythia montala</i>		定着	食草であるウツクスズクサの生育地域が限定されており、現状での発生・定着場所は限定的である。		○	○	△		
76	6	3		昆虫類	アカカシゴマダラ大粒亜種(名義タイプ亜種)	<i>Heudina assimilis assimilis</i>	○	定着	発生・確認場所が増加しており、県内に広がっている。		○	○	△		
77	6	4		昆虫類	クスベニカスミカメ	<i>Masonella cinamomi</i>		定着	東毛地域で確認された。今後、拡大する可能性が高い。		○	○	△		
78	6	5		昆虫類	ブラナナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>		定着	県南部の樹液樹等でみられる。		○	○	△		
79	6	6		昆虫類	アワダシソグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>		定着	県内の広い地域でみられる。		○	○	△		
80	6	7		昆虫類	イネモズグンバイ	<i>Lissonotus oryzophilus</i>		定着	県内の広い地域でみられる。		○	○	△		
81	6	8		昆虫類	アルファルファコグンバイ	<i>Hypena postica</i>		定着			○	○	△		
82	6	9		昆虫類	ムネアカハラビロカマキリ	<i>Herodias chinensis</i>		定着	西毛地域で定着が確認されている。本種が増加すると在来種(ハシロカマキリ)の個体数が減少している事例が報告されている。		○	△	△		
83	6	10		昆虫類	内閣府クワガタムシ	Lucanidae Gen. spp.		侵入	ネットショップやホームセンターなどで販売されており、たまたま飼育に入手できる。飼育放棄による放棄や逃がらざるに野外で定着している事例があり、生態系への影響が懸念される。		◎	○	△		野外へ逃がさない。最後まで責任をもって飼育する。野外に定着した場合の生態系への影響などについて、購入者や飼育者への周知や啓発を進めるとともに、販売店で購入者への注意喚起を徹底する。
84	6	11		昆虫類	内閣府カブトムシ	Dynastinae Gen. spp.		侵入	上記と同様		◎	○	△		野外へ逃がさない。最後まで責任をもって飼育する。野外に定着した場合の生態系への影響などについて、購入者や飼育者への周知や啓発を進めるとともに、販売店で購入者への注意喚起を徹底する。
85	6	12		昆虫類	アカカミアリ	<i>Solenopsis geminata</i>	○	侵入	県内では1例の確認事例がある。物流等の移動に伴い侵入する危険性がある。		◎	◎	◎		

通し番号	分類群番号	分類内番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着段階	定着段階に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人体への被害	対策の優先度	対策方法・対策実施時の注意点など(分類により数値が異なるため、具体的な記載が可能な種のみ記載)
86	6	13		昆虫類	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	○	侵入	吾妻山南麓地域において野外に逸出した個体と思われる複数の確認事例がある。コローニの定着は確認されていない。		◎	○	○		施設栽培トマト農家での受粉用として販売されていることから、使用する農家に對して施設からの逃げ出さないなどの指導の徹底が必要。
87	6	14		昆虫類	オオワフガタ(国内外未種)	<i>Dorcus hopei</i>		侵入	ヘンションワフヤホムセンゾウなどで販売されており、だれでも簡単に入手できる。観賞用による持ち出しによって野外で定着している事例がある。県内では未定着の個体が不明であり、他地域の個体群による定着の可能性もある。		◎	△	△		
95	7	1		陸生節足動物	ヒアカゴケゴモ	<i>Labiocactus haasei</i>	○	定着	成体の個体と卵嚢が一種の確認事例が2件あり、定着の様相を示す。	県南部からの発見報告が多い。	△	○	◎		発見したら、その場所で駆除することなどの広報活動を年2回(春と秋)行う。
98	8	1	有害種	クサヤシロシロ	マツノザイセンチュウ	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>		定着	県南部ではまん延しており、マツ枯れの被害が拡大している。北部でもマツ枯れ被害がみられる。		◎	◎	△	○	
99	8	2		クサヤシロシロ	ウチダザリガニ(タンカイザリガニを含む)	<i>Pacifastacus tenuisculus</i>	○	定着		片倉村「青沼」で確認されており、注意の恐れがある。	△	△	△		
100	8	3		クサヤシロシロ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>		定着	条件付き		○	○	△		
101	8	4		クサヤシロシロ	スクロシゴカイ	<i>Paniceae canaliculata</i>		定着			◎	○	○		水田に注意にはさない。
102	8	5		クサヤシロシロ	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.		定着			○	○	△		
103	8	6		クサヤシロシロ	マダラコウラナメクジ	<i>Limax maximus</i>		侵入	県央部で確認事例がある。		○	○	△		